

重視する『6つの視点』

少子化・人口減少の急速な進行をはじめとする現在の社会情勢や上田らしさを踏まえ、総合計画前期5年間の政策構築・推進にあたって各分野共通で、特に意識して取り組むべき次の6項目を「重視する『6つの視点』」として位置付けます。

性別や年齢、国籍などに関わらず、誰もが自分らしく生きて、幸せを感じられる新しい時代、新しい社会の創出に向けて、共通の視点のもと各分野の施策を推進することで、複層的な課題の解決や分野横断的な連携に繋げ、施策効果を高めます。

■市民協働推進

個人の価値観やライフスタイルが多様化する中で、変化の激しい時代に柔軟に対応し、多くの市民の幸福・安心を実現するためには、皆で協働して地域の課題を主体的に解決しようとする力を最大限に活用することが必要です。市民や地域コミュニティ、事業者、行政がそれぞれの役割を分担しながら協働のまちづくりを推進する視点を持って取り組みます。

■人生100年時代への対応

人々の寿命が延伸し、人生100年時代となることで、従来の一般的な生涯設計や社会構造に大きな変化が生まれることが想定されます。年齢を問わず、心身の健康維持が図られることはもちろん、全ての人が生涯にわたって地域との関わりや生きがいを持ちながら、元気にイキイキと活躍できる環境づくり、安心して暮らせるまちづくりを推進する視点を持って取り組みます。

■こども まんなか

子どもは、社会の希望、未来をつくる力です。子どもの利益を一番に考えた上で、子どもの成長を支え、親の子育てを支え、地域全体で子育てを支えることが必要です。子どもの笑顔が家族の笑顔となり、地域の笑顔へと繋がってまちが輝く。地域における出産・子育て環境の改善等に努め、すべての子どもが笑顔でしあわせに暮らせるまちづくりを推進する視点を持って取り組みます。

■ジェンダーギャップ解消

地方創生推進における大きな課題の一つが、若年層女性の大幅な転出超過です。その要因として挙げられるのが既存の社会環境、構造に由来する男女間の性別役割分担意識や所得格差、機会の格差であると言われており、社会全体が格差の存在を認識し、是正することが重要です。若者に選ばれる「まち」を目指して、ジェンダーギャップ解消の視点を持って取り組みます。

■持続可能な社会づくり

現在世界規模で、気候変動を一因とする自然災害の激甚化や国際紛争、資源の枯渇懸念等の課題に直面しており、我々の生活にも直接的、間接的に影響を及ぼしています。国際目標であるSDGsを踏まえ、ゼロカーボンや循環型社会への転換、災害等危機管理に対する社会の体制整備や人手不足・担い手不足への対応等、持続可能なまちづくりを推進する視点を持って取り組みます。

■最先端技術活用

AIやIoTをはじめとするデジタル技術は産業面のみならず、我々の日々の生活にも深く浸透し、それらの活用は様々な課題を克服し、人々の生活利便性を向上させています。技術は日進月歩であり、各分野における先端技術の動向を的確に把握し、その利点・欠点を正しく理解しながら、効率的・効果的・発展的なまちづくりに活用する視点を持って取り組みます。